

教員になって思うこと

酒向 宏征（さこう ひろゆき）

2015年 関高校卒業

2019年 岐阜聖徳学園大学教育学部社会専修卒業

現在 岐阜県の小学校教員（もうすぐ4年目）

はじめまして！小学校教員歴3年の酒向宏征です。今回は、私の高校時代、大学時代を簡単にご紹介。そして、教員になってからの経験&私の思っていることについて書かせていただきます。教員を志す関高生に少しでも参考になれば幸いです。よろしくお願いします。

高校時代

- ・将来は「教員」となんとなく思っていた。
- ・部活動に熱心に取り組む、勉強はサボり気味。
- ・気の合う仲間恵まれ、毎日が楽しかった3年間。
- ・体育祭、文化祭などに全力。
- ・慌てて受験勉強、なんとか大学に入れました…。
（当時の関高校の先生方に感謝です。特に日本史の補講のおかげで点数がアップし、合格ラインを越えることができました。）



大学時代

- ・大学でもバスケ部へ。4年間続けました。
- ・単位はもちろん每学期フル単です。
- ・音楽好きの友達と出会い、軽音部の連中と遊ぶ日々。
- ・3年後期の教育実習を終え、教員採用試験に向け勉強開始 & 日本史の論文作成。
- ・試験終了、無事に合格できました！
（岐阜聖徳学園大学の採用試験対策は一流です。それに加え、試験に対する学生の熱はすごいです。）

同じ実習校にいった5名のうち、教員になったのは私一人…。教育学部でも、別の一般職に就く人はたくさんいます！でも、教育実習で「楽しい」と感じる事ができたあなたは教員に向いています。ぜひ、学校の先生を目指してもらいたいです！



①読書をしよう

教員1年目の夏、私は関高校出身のT君と遊びました。彼も私と同じ教員1年目。彼の仕事ぶりは分かりませんが、顔から優秀さが伝わります。私はエリート感漂う彼が羨ましかったです。そんなT君の優秀さの原因がわかりました。それが読書です。彼の家には山ほど本が置いてあります。小説、ビジネス書、自己啓発本、教育実践書など様々。対する私の家にあるのは、漫画のみ。「これはまずい。なんだか教員としてすごい差を感じる。」、そう思い私も読書を始めました。

それから私は教育実践書をよく読むようになり、本から学んだことを自分なりにアレンジして、学級経営や授業に取り入れていきました。すると、子どもの姿が劇的に変わりました。多少の問題は起きますが、良い学級の雰囲気です。1年を締めくくりました。今思うと、T君に触発されて読書を始めなかったら、私の学級は崩壊していたかも？なんて思ったりしています。

本から得た知識は学級経営、教材研究に大いに役立つと思います。また、子どもたちや保護者の方からいろいろなことを聞かれます。そんな時、日頃の読書の積み重ねで得た知識で、なんとかその場を切り抜けられたこともしばしば。読書をしていたことで何かと助けられる場面は多いです。教員を志す関高生の皆さん、勉強の合間に様々な本に触れる機会を作っておくと良いと思いますよ。

【印象に残っている著書】

- 学びを結果に変えるアウトプット大全/樺沢紫苑
- 策略ブラック授業づくり/中村健一
- 国語科基礎力トレーニング/土居正博
- 日本史のツボ/本郷和人

②一筋縄ではいかない授業

教育実習で5年生を担当しました。授業もなんだか上手くいった気がします。でも、それは実習生へのサービスだったと気づきました。実習生は誰でも人気者です。どんな授業でも上手くいってしまうものです。

実際に現場に入ってみると非常に難しいです。担任に慣れてくると怠ける子が出てきます。学力の差があり、理解までの時間が違います。友達とのトラブルで授業への気持ちも変わります。日頃からよく子どもを観察している教員でも、児童の実態を完全に把握するのは難しいです。

それでも、できるだけ子どもたちの実態に合った授業を作ろうとします。すると、「この教科キライ」なんて言っている子も夢中になって学習することがあります。こちらのねらい通りに学習が進むと、とても嬉しいです。「教員、楽しい」と思える瞬間です。

教員を3年やってみて、いろいろと大変な職業だとわかりました。しかし、魅力も多い職業だと私は思います。私はこの職業の魅力を多くの人に体験してほしいと思っています。教員を志望する関高生の皆さんには、その思いを持ち続けて、楽しい学校生活を送ってほしいと願っています。

